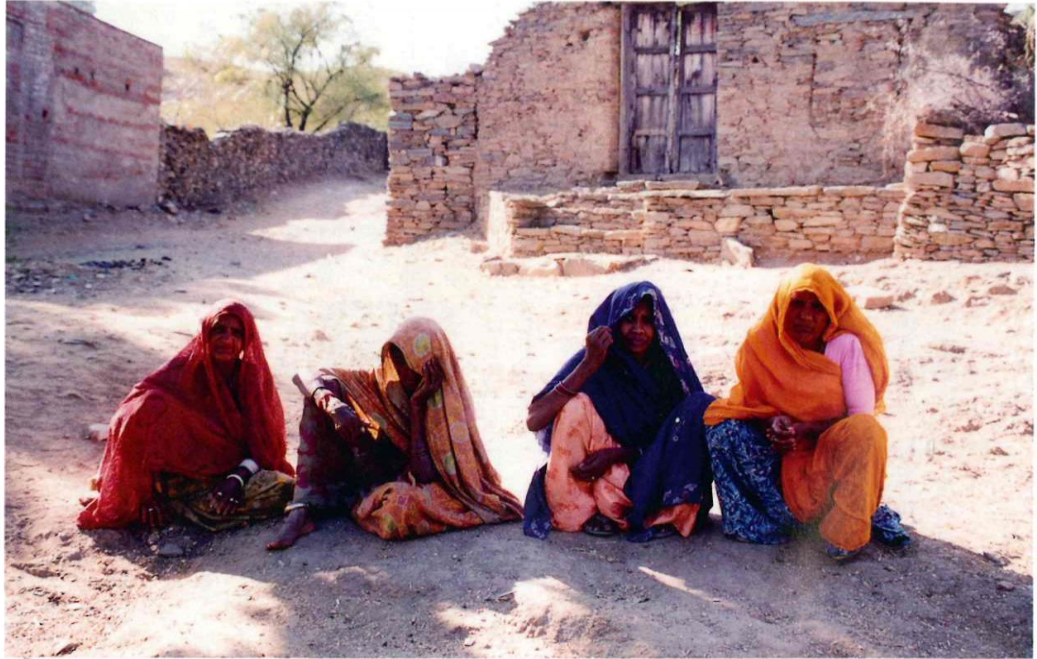


	編集/コンビニの会事務局 連絡先/〒452-0822 名古屋市西区中小田井 2-431 TEL/FAX(052)505-6082(コンビニハウス)
	障害をもつ人たちの地域生活を支援する 特定非営利活動法人 コンビニの会
	定価/150円 昭和54年8月1日第三種郵便物認可
	第125号



インド ラジスタン州の国道沿の村にて 2000

アジアの笑顔に学ぶ

写真家 長谷川 友子

年齢的な体力の問題で、海外の撮影に以前のように精力的に出かけることができないため、国内で取り組むテーマを考えていた。

「日本でのイスラムの世界」はどうかと思っていた時、名古屋シネマテークでイスラム映画祭があり、1週間毎日通い9本全てを見ることができた。パキスタン、イラン、インド、タイなどのイスラム教徒を扱ったストーリー。ドキュメントあり、ファンタジーあり。毎日、いろんな国に出かけている様な気分。イスラムといっても、生活スタイルは国によっていろいろ。そして個々に信仰の解釈が異なり、解釈次第で大きく人生が異なる物語があった。監督は発表後、何度も身の危険を感じて、国外に逃亡したとのこと。題名は『神に誓って』。温和な両親のイスラム教の家庭で育った仲の良い兄弟は、音楽を志していた。

(次頁へ)

その後、兄はアメリカに留学する。弟はイスラムの教えに従い、それまでの音楽を否定し、末はアルカイダの兵士になる。そして戦うことを拒んでいただけで、自分が襲われた時、相手を殺害してしまう。その時、アメリカの同時多発テロ9・11が起きる。アメリカに渡った兄はテロ組織とみなされ拘束される。拷問の末、精神を病み祖国に強制送還されるというストーリー。

この映画祭を企画したのは、日本人の男性で、「若い時にいろんな国を旅していた時、イスラムの人が、日本人だと分かるとすごく良くしてくれた。正しくイスラムの人の事を日本に伝えたいと考えて」と語っていた。館内は40席しかなく、毎回立ち見が出たり、「この人、あの人、前日も来ていたな」と私と同じ様な人が。



インド イスラム寺院にて 2000

雑記
ごまめの歯ざしり

楽しい野球

うちの小学生の息子は、小さい頃から野球が大好きで野球チームに入っている。一般的なクラブチームとはちよつと違って「野球教室」の強化チームという位置づけであり、先生が教えてくれるチームである。人数が少ないので高学年でなくともいつも試合に出ることができ、子供たちはとても楽しそうにやっていると。ただ残念ながら、前に勝ったのがいつか思い出せないほどなかなか試合には勝てない。親としては、いつも応援に行っても勝てないのでかわいそうにさえ思うのだが、子供たちはこちらが思うほどあまり気にしていない様子である。勝てない理由はいろいろあるとは思いますが、とにかくみんな優しく、またスポーツ系にありがちな学年の垣根もなく子供同士はもちろん、先生とも仲がいいことも勝負の世界ではマイナスになっているのかもしれない。

逆に試合を見に行くと、相手チームではちよつとしたミスで監督やコーチに大声で怒鳴られたり、頭をたたかれたりしている光景を見かけることもあり、あまりいい気分ではない。こうしたことは部活動やスポーツの世界で最近よく問題として取り上げられるようにいじめや暴力と紙一重だと思ふのだが、小さな子供が自分からきつい練習をしたり長く集中中でもできないので、そういった圧力がかかっているチームの方が一般的に強いということになる。

「やらされて」強くなっても子供のために良いこととは思えないと思いつつ、勝てないチームの負け惜しみにしか聞こえない感じで悔しかったが、駅伝で連続優勝し話題になっている青山学院が、決して押さえつけてやらせる形でなくとも強くなれることを実証してくれたと、大変うれしく思っている。

(会報委員 鈴木 奏子)



意図的に着目。

縮小する社会福祉。

生活支援部 榊原 芳典

●福祉から切り捨てられる人々

年明け、大阪で開催された「きょうされ
ん 経営管理者総合研修会」に参加させて
もらいました。

障害分野では、障害者総合支援法が平成三
〇年度に見直されることになっており、その
改定がどのようなものになるか関係者は注

視しています。今回の研修でも、そうした話

題が中心になると思いましたが、話題の

中心には介護保険や生活保護の問題があ

がっていました。

研修の主催者が生活保護制度に関心を向

けようとするのには理由があります。障害福

祉制度をはじめ、私たちの生活に深く関わる

様々な制度が、この生活保護制度を基準に構

築されているからです。

介護保険制度は二〇一五年度の改定に

よって、利用者負担を増やし、軽度の利用者

をサービス対象から外していく流れです。生

活保護制度は、十分な検証がされないまま給

付水準が最大で一〇%も引き下げられまし

た。

介護保険では現実にサービスを利用でき

なくなる方ができたり、生活保護を受けて

いても生存権を脅かされる可能性があるこ

とが具体的にわかり、「そんなことしたら困

る人がでてくるし、生活していけなくなった

ら国はどうやって責任をとるつもりなんだ

ろうか。」と不思議に思いました。

その受け皿として周到に準備されてきた

のが、社会福祉法人改革です。

ここ数年、一部の社会福祉法人が数億円規

模の内部留保金を蓄えているという批判が

取り沙汰されています。社会福祉事業の会計

と一般企業の会計を単純に比較できないという反論もあり、現在は内部留保金と言わず、「社会福祉充実残額」と呼ばれるようになっていきます。

社会福祉法人改革では、その「社会福祉充実残額」を使って、地域で困っている人に無償または低額な料金で積極的にサービス提供に努めるよう規定されています。余っているお金があるなら、地域の福祉増進のために使ってもらいたい、一見すると真つ当な主張に感じます。

しかし、提示された具体例を確認すると生活困窮者の支援や、福祉サービスの対象にならない軽度の方の支援など、これまで国が

担ってきた社会保障の責任を社会福祉法人に肩代わりさせるものです。

これらの具体例は、先述の介護保険制度や生活保護制度の後退によって行政から切り捨てられた人々の支援そのものです。

●社会福祉は誰が担つか

エゼル福祉会も社会福祉法人として、こうした取り組みの対象となります。エゼル福祉会

は、地域に暮らす障害をもつ方の支援を第一義と考えていますが、それも十分に実現できていない状態です。

人手は慢性的に不足しており、これまで建

設してきた通所施設やグループホームの維持、新たな施設づくりと、お金はいくらあっても足りません。法人が本来行うべき事業

(エゼル福祉会であれば、障害をもつ方の支援のために積み立ててきたお金が「余剰金」とみなされ、生

活保護制度等の穴埋めに使われようとしていることは納得がいきません。

過去には、公益事業の多くは国の責任として設備整備されてきましたが、公の責任は縮小の一途をたどっています。



その中で、近年、注目を集めているのが株式会社などの営利企業が運営する福祉事業

です。こうした事業体は市場原理に則って競争力が洗練されており、社会福祉事業においても最小限の公的資金で経営を行っていると行政からは期待されています。

一部の営利企業では利益や効率化を優先するあまり、サービス費収入の低い方や、割に合わない方を受け入れない、サービス費を不正請求するなど、社会福祉の理念から程遠い事例があることも報告されています。

また、市場原理に任せた状態が続けば、サービス費収入の高い方や、自己負担に応じられる所得の高い方にサービス提供が偏り、

経営的に利益率の低い方は自然に排除されていく可能性があります。

公的制度の後退に加え、市場としての社会福祉からも排除された人々については、地域

で共に暮らす家族、近隣で支え合い、社会福祉法人も「社会福祉充実残額」でその手伝

いを行っていく、それが社会保障審議会等で議論されている「我が事・丸ごと」地域共生社会の実態だと感じました。

同じ日本で暮らしながらも、住む街の規模や家庭環境によって、個々の生活の豊さに差

が生まれます。それが致命的なものにならないよう是正し、人間としての生活を保障して

いくのが国家の最大の役割だと思います。今、

その責任が曖昧にされ、民間や個人にすり替えられようとしている気がします。

メディアではあまり話題になりませんが、日本の社会福祉は転換期を迎えています。今

後も耳触りの良い制度が次々と出てくるか

もしれませんが、サービスの意図や本質を見

抜き、対応していける力を培っていきたく

思います。



この一年を振り返って

通所部 坪内 美紀

私がエゼル福祉会に入職し、ウイルで働くようになってから早いもので約一年が経とうとしています。今回このような機会をいただいたので、自己紹介も兼ねながら、この一年間を振り返って感じたこと等について書いてみたいと思います。

私は岐阜県の関市出身で、周りは山か川しかない自然豊かな所で31年間過ごしてきました。田舎なので、道を歩いていてもほとんど誰も通らず、通るのはサルやシカ、タヌキばかりです。イノシシも出ます。空気も澄んでいるので夜になると星が煌めき、とても清々しい気持ちになります。今も月に一度はお米をもらいに実家に帰るのですが、都会の

道から田舎の道になるとホッとします。

2015年の夏、結婚を機に名古屋で生活することになりました。実家暮らしで家事もやったことが無く、仕事一筋でやってきたこと、田舎から都会へ引越してきたことから、まずは家事の勉強と都会暮らしに慣れる為、あとは子供が出来たらいいなという期待感もあり、半年ほどの休養期間を設け2月頃まで過ごしていました。元々が家庭に入るタイプではないので、2月になる前には仕事が多くなり、どこで働こうかなと考えていた時に、ウイルで働いている友人の増田さんから「ウイルで働かない？」と声をかけてもらいました。

私は以前、身体障害者施設で生活支援員として約9年間働いていました。入所施設だったので、入浴や排泄、食事等の身体介助を主に、夜勤も行っていました。毎日が慌ただしく流れ、時間に追われながら利用者主体というよりも、職員主体の日々を送っていました。

意思疎通が出来る方は自分の希望通りに介助してもらえ、一方、意思疎通が困難な方は、職員が時間に追われることで余裕がなくなり、なかなか思いを汲み取って反映することが出来ず、それをケアに繋げていくことが出来ないもどかしさを感じながら、日々業務にあたっていたことを思い出します。その中で、高次脳機能障害がある方で、普段は「ぼかやろう」や「たわけ」と言いつつ暴力行為をしてしまう方が、音楽療法に参加することで穏やかな表情を見せ、わからないながらも歌を口ずさむ姿を見ることが出来たり、意思疎通が困難な方で話し掛けても反応が無く、傾眠が強くほぼ一日中寝ていた方が、毎日名前を呼ぶことで笑顔を見せてくれたり、起きている時間が増えたりするようになったことが嬉しく、やりがいも感じていました。行事も年4回あり、計画・実施は大変でしたが利用者やご家族の楽しそうな表情に喜びを感じていました。また、何かあった時や困った時に頼ってくれる利用者もいて信頼され

ている実感も湧いていました。

長く働いていると利用者との別れも多く、たくさんの方を見送ってきました。ご家族の温かい言葉に支えられ、自分の支援方法を認めてもらえたり、利用者の笑顔を見る事で元気をもらうことが出来、辛い事も乗り越えることが出来ました。様々な出来事がありましたが、働いていて楽しかったし、次に働く場所も障害者施設が良いなと考えていたので、声を掛けてもらえて良かったと思います。

実習へ来てみると、施設全体の雰囲気は柔らかく、時間もゆつくりと流れる感覚が、利用者主体という部分を大切にしているのだと感じることが出来、ここで一緒に働きたいと思う決め手になりました。

無事にウイルに入職してからは、軽作業グループに配属され、右も左もわからない状態が続きましたが、仲間も慣れないながらも仲良くしてくれ、毎日が楽しく過ぎて行ききました。初めは仲間対応を覚えながら軽作業も覚えていくことで、大変な想いもしましたが、

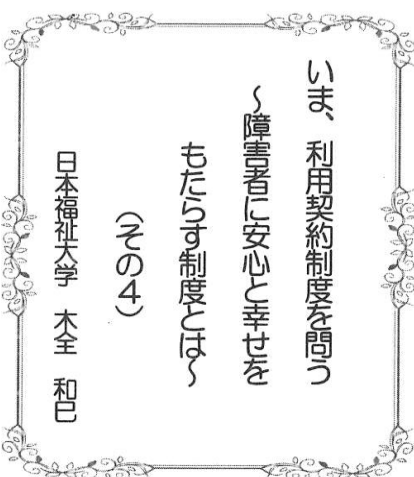
今では一緒に歌いながらや、お話をしながら軽作業が出来るようになりました。違うグループの仲間も優しく接してくれたり、「冗談を言い合う仲にまでなったり、受け入れてもらえているのだ」という実感があります。

今でも時々仲間の対応で分からないことや困ることはありますが、廣瀬先生のケースワークに参加したり、職員間で悩みを共有したりすることによって、どう対応していけば良いかが少しずつ見えてきたように感じます。まだまだウイルでは新人ですが、今までの経験や介護技術がウイルでも活かしていることを実感しているので、その経験を活かし、仲間にとっても、職員にとってもウイルが過ごしやすい場所になるようにしていければいいと思います。仕事をしながら主婦として家事もしているので、体力的や精神的にしんどい時もありますが、友人がいることや、同期の仲間がいることで、気持ちが悪くなり、いろいろな意見を言いやすく、聞いてもらえるように感じます。

最後に、知的障害の分野はまだまだわからないことが多く、制度のことも詳しく無いため、勉強不足が目立ちますが、これからきちんと学んでいこうと思います。仲間の思いを汲み取り、頼りにされる職員になれるよう努力していこうと思います。



坪内美紀さん(左) 利用者さんとミュージックケア♪



前は、障がい福祉現場の「人材難」の現状について触れました。今回は、こうした現状に対する政府の対応について触れ、最終回にします。

2015年9月17日、「新たな福祉サービスのシステム等のあり方検討プロジェクト チーム・幹事会」がいわゆる「福祉提供ビジョン」を発表、続いて、2016年3月24

日には、いわゆる「ガイドライン」を公表しています。

「総論」は「人口減少社会における福祉人材の確保と質の高いサービスを効率的に提供する必要性の高まり」という見出し。

「人口減少社会において福祉サービスを持続可能なものとするべく、効果的・効率的なサービス提供体制について検討するとともに、

キャリアのあり方を含めた福祉業界における人材の活用についても検討を重ねることが必要」。

「効果的・効率的なサービス提供体制」とセットでの「キャリアのあり方を含めた福祉業界における人材の活用」が

キーワードです。もう一つのキーワードが、「生産性」です。「生産性とは、生産資源

の投入量と生産活動により生み出される産出量の比率として定義され、投入量に対して産出量の割合が大きいほど効率性が高いことを意味する。しかし、サービスの対価が公定価格で定められ、その公的価格はサービスに要する平均的な費用を基に定められている福祉サービスにおいては、これまで生産性向上という言葉になじみが薄く、あまり問題提起されてこなかったものと思われる」と、改めて「生産性向上」というこれまで社会福祉現場では、「なじみのなかった」（いや「なじまない」とされてきた）概念が、強調されています。具体化として、ロボットやICTといった先進的な技術を用いた効率化、業務の流れの見直し等を通じた効率化、

の投入量と生産活動により生み出される産出量の比率として定義され、投入量に対して産出量の割合が大きいほど効率性が高いことを意味する。しかし、サービスの対価が公定価格で定められ、その公的価格はサービスに要する平均的な費用を基に定められている福祉サービスにおいては、これまで生産性向上という言葉になじみが薄く、あまり問題提起されてこなかったものと思われる」と、改めて「生産性向上」というこれまで社会福祉現場では、「なじみのなかった」（いや「なじまない」とされてきた）概念が、強調されています。具体化として、ロボットやICTといった先進的な技術を用いた効率化、業務の流れの見直し等を通じた効率化、

第三者評価があげられています。

「ガイドライン」では、「本ガイドラインは、新たな福祉ビジョンを受け、高齢者介護、障害者福祉、子育て支援等の複数分野の支援を総合的に提供する場合の各福祉制度の人員配置基準、設備基準等に係る現行制度の規制等について、現行制度において運用上対応可能な事項を整理することで、総合的なサービスの提供の阻害要因を解消し、全国で更に取組を推進することを目的」としています。あくまでも、「現行制度において運用上対応可能な事項を整理すること」にあります。人材の確保とここでは、既に、保育士と幼稚園教諭、介護福祉士と保育士、小学校教諭と保育と幼児教育という規制緩和が提

案され、「家庭的保育者(保育ママ)」「保育従事者」「放課後児童指導員」制度も動き出しています。

2016年7月15日に設置された「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部の全体像イメージを見ると、サービス・専門人材の丸ごと化では、「公的福祉サービスの総合化・包括化」と「医療介護人材の確保・養成、人材のキャリアパスの複線化」があげられ、「医療・福祉の複数資格に共通の基礎課程を創設、資格所持による履修期間の短縮、複数資格間の単位認定の拡大、共通基盤過程と専門課程の2



階建ての養成課程へ再編すること」などを検討するとしています。保育士も含め、人材確保のためのわずかながらの賃上げ施策とともに、生産性を高める効率化と一方で子どもから高齢者まで対応できるように基礎資格を統一してしまおうという動きです。すでに過疎地域では、障がい者分野と高齢者分野の相乗りも当然のように行われています。安上がり、専門性の軽視で、乗り切ろうという訳です。「丸ごと」ではなく「丸投げ」ですね。



事務局コーナー

「ご協力ありがとうございました」

1月～2月（敬称略・順不同）



★ ご寄付いただいた方々

★ 活動にご協力いただいた方々

(NPO 法人コンビニの会)

※会報購読料1万円以上お振込みの方を含む

永田雅俊 ハヤシクニエ
アイ

(エゼル福祉会)

★ 物品寄付をいただいた方々

(コンビニハウス)

伊藤 学 塩澤しのか
石原まち

(WILL)

原あゆみ 丹羽恵子
木下楓奈子
梅村 勝 塩澤しのか
河田笑子 奥村信子

(コンビニハウス)

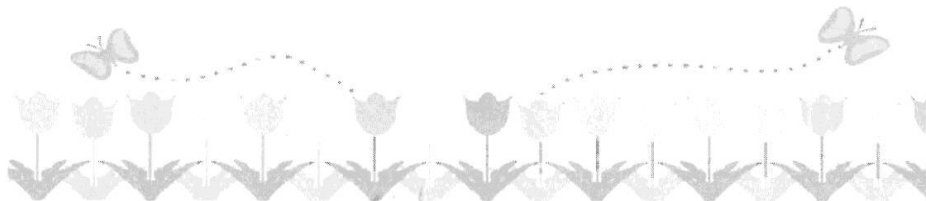
伊奈晶子 石原正寅 辻本道子 藤本菜見
黒田隆広 林 和子 高塚朱美 山下沙也加
石原まち 錦谷美沙 大森 信 酒井まみ子
東原光江 田口陽介 加藤 結 藤本由紀子
寺西 剛 星野恭兵 辻本有沙 大瀧有乃
加藤志歩 土田京加 堀 浩二 赤坂美登里
加藤礼菜 桑原諸彰 辻本沙利菜 三浦結梨恵
鷲見澄世 曾我直子 北島ゆり香
楠村ゆき 竹内恵子 寺田みどり
青木政治 茂手木利典 奥村 修
大脇美由紀 伊藤和代 小川良子

(WILL)

武部 文 須田たみ子 北島ゆり香
(株)米久商店 石塚 良史

★ 会報発送ボランティア

半田素子



《活動状況》

1月

- 5日 理事会・評議員会
 8日 ヘルパー学習会
 11日 社協 接遇・マナー研修 (峯)
 18日 社協 医学・基礎知識研修 (坪内)
 20日 自立支援協議会相談支援部会 (寺澤)
 23日 会報発送
 24日 社協 施設長セミナー (溝口)
 27-28日 きょうされん経営管理者研修 (寺澤・榊原)
 26日 W I L L 親の会



2月

- 2日 会報会議
 5日 ヘルパー学習会
 10日 あいされん運営委員会
 社会福祉法「改正」学習交流会(溝口)
 15日 社協「福祉職員のための口腔ケア」 (馬淵)
 7日 新施設土地購入入札
 7日 理事会・評議員会
 9日 仕事フェア(吹上ホール) (榊原・大野)
 17日 ケースワーク会議
 18日 全職員研修
 23日 W I L L 親の会
 26日 NPO センター 記録の書き方講座 (稲垣・峯)

全障研結成 50周年 発達保障セミナー in あいち

日時：2017年4月15(土) 10:30～20:30 (受付10:00～)
 2017年4月16(日) 10:00～16:00 (受付9:30～)
 ※昼食は各自持参して下さい。

場所：ウイルあいち 大会議室
 名古屋市東区上堅杉町1 (名古屋市市政資料館の南側)
 地下鉄名城線「市役所前」駅下車 8分

- 4月15日 情勢学習会
 講演Ⅰ「発達の考え方と乳幼児期の療育のあゆみ」
 講師 近藤直子さん
 (あいち障害者センター理事長、日本福祉大学名誉教授)
 夕食交流会
 映画上映「夜明け前の子どもたち」
- 4月16日 講演Ⅱ「障害は迷惑ではない」
 講師 木全和巳さん(日本福祉大学)
 講演Ⅲ「子どもの笑顔の先に発達を求めて」
 講師 三木裕和さん(鳥取大学)

資料代、申込み方法は下記問い合わせ先へご連絡ください
 問い合わせ先 全国障害者問題研究会愛知支部

Fax 052-883-8561
 E-mail ninnega.aichi@gmail.com



社会福祉法人エゼル福祉会

2017

お菓子工房WILL 商品紹介

仲間たち自慢の手作りお菓子です。お菓子を通じて地域とのつながりや笑顔の輪を広げていきたいと思っています。常設店もありますのでぜひ遊びに来てください♪

1

チーズケーキ



去年の人気NO.1商品！タルトの生地から手作りで作っています。なめらかなクリームチーズとサクサクのタルトの食感が楽しめます。

¥200

2

シフォンケーキホール各種



ウィル創設当初から作っているロングセラー。ほんのりレモンの香りがするプレーン、紅茶の葉がたっぷり入った紅茶、和風の抹茶の3種類あります。

¥700

3

アメリカンクッキー (プレーン・チョコ)



サクサクのビスケット生地にチョコチップがたっぷり。可愛い一口サイズのクッキーです。

¥100

4

プレーンクッキー



季節によっていろんな形が出てくるのが楽しみ。あなたのクッキーはどんな味？お子様にも大人気の商品です。

¥100

5

ムラング



隠れ人気商品のムラング。ふわふわの白い形にココナッツリングのサクサク感と口の中でメレンゲが溶ける瞬間がたまりません！

¥100

6

コロコロラスク各種



甘いのが苦手な方に、そのまま食べてよし！ビールのおつまみに、スープやサラダに色んなレパートリーが楽しめます。

¥100

社会福祉法人エゼル福祉会

お菓子工房WILL

〒452-0813名古屋市区西赤坂町146番地

FAX/TEL (052) 505-6089

http://ezeru.sakura.ne.jp

受付時間 10:00~17:00

※土日祝日休み

※デザイン・素材が変更する場合がございますので、あらかじめご了承ください。

銀行口座

三菱東京UFJ銀行 小田井支店 店番 238 (普) 口座番号 1440108

特定非営利活動法人 コンビニの会

郵便振替口座 番号 00800-2-35190 コンビニの会

ご意見・ご質問・お問い合わせは下記までお寄せください。

障害のある人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人

〒452-0822 名古屋市区西中小田井 2-431

コンビニハウス Tel (052) 502-7731

Fax (052) 505-6082

コンビニの会

理事 宮川 優子

URL http://ezeru.sakura.ne.jp/

E-mail convini@beach.ocn.ne.jp